

たのは、部門、スタッフの主導的役割と小規模でもって個人的に行われたが、この状況は利用者に対する情報提供及び教育的サポート面から理想的でなかった等、CD-ROM導入の経緯そして新たに開設される電子情報図書館においての将来展望及びCD-ROMの利用は研究と学問の新しい資源として非常に重要であり、利用希望者は潜在的に多いことがわかった。

以上、2題にわたって講演があった。

平成元年度 調査研究員の委嘱

平成元年度附属図書館調査研究室の調査研究員に、下記3名の教官が昨年度に引続き委嘱されました。委嘱期間はいずれも平成元年4月1日から同2年3月31日までです。

文 学 部：日野龍夫 教授
調査研究事項：「大惣本」目録索引作成

大型計算機センター：星野 聰 教授
調査研究事項：目録カードによる遡及入力の研究

大型計算機センター：金澤正憲 助教授
調査研究事項：遡及入力標準フォーマットの設定

昭和63年度附属図書館の利用概要

附属図書館は新館開館（59年4月）から5年目を迎え、機構面での課名変更、サービス面での外国学術図書（洋書）等の開架資料の拡充、AV資料の充実及び、利用者の為のオンライン目録検索の開始等、順次環境も整備されてきている。附属図書館では、毎年、図書館の利用実態把握の一つとして利用統計を分析し、様々な改善をはかる資料としている。この2～3年、統計上に大きな変化は見られず、一定した動きをみせている。

以下に昭和63年度の利用概要を紹介する。

1. 入館者

年間265日開館し、588,860人、一日平均約2,300人が入館した。特に2月24日には3,820人の入館者数を記録した。全体的に昨年度よりやや減少気味である。月別では2月が最も多く61,908人（一日平均約3,000人）であった。

時間帯では開館時間9～21時のうち、昼間（9～17時）が全体の83%を、特に12時から15時までの3時間に1日の38%の入館者が集中している。

入館者数の月別変動は、大学行事等の季節要因による。試験期である2月をピークに、6月、9月と入館者数は多く、時には閲覧席が確保できない日もあった。

【注】この数字は、利用証によってカウントされた人数で、他に十数%程の入館者がある。

2. 図書の貸出

開架図書と書庫内図書との貸出冊数の割合は84：16となっており、合せて77,129冊が41,101人に対して貸出された。全体として順調な伸びがみられ、特に開架図書の利用が目立つ。

開架・書庫内図書の貸出、雑誌・参考図書の一時貸出及び貴重書の閲覧総数は113,136冊であった。尚、全般的に自由接架による開架図書の増加や、複写設備の充実等により、把握できる対象は益々減少する傾向にある。

部局別では文学部が最多冊数（19,655冊）で貸出密度（貸出冊数÷登録者数）においても11.2冊と他学部よりも群を抜いて多い。次いで教育学部

昭和63年度 附属図書館図書貸出利用統計

区 分	開架(冊)	書庫(冊)	計(冊)	比(%)	教 官	職 員	大学院生	学 生	利用人数(人)
和 書	64,018	12,006	76,024	99 :	2,994	1,439	16,664	54,927	} 41,101
洋 書	571	534	1,105	1	129	46	468	462	
計(冊)	64,589	12,540	77,129	開館日 一日当り 291冊	3,123	1,485	17,132	55,389	一人一回 当り 1.9冊
構成比(%)	84	16			4	2	22	72	

昭和63年度 附属図書館資料別閲覧利用統計

区 分	利 用 冊 数 (冊)			学内・ 外比 (%)	利 用 人 数 (人)		
	学内	学外	計		学内	学外	計
普通図書	—	3,312	3,312	—	—	605	605
貴重図書	1,580	1,836	3,416	46:54	193	169	362
特殊資料	105	68	173	61:39	47	14	61
参考図書	3,061	121	3,182	96:4	1,774	67	1,841
新 聞	11,485	918	12,403	93:7	1,371	133	1,504
雑 誌	11,010	2,511	13,521	81:19	5,134	722	5,856
計	27,241	8,766	36,007	76:24	8,519	1,710	10,229

※閲覧：自由接架による利用数は把握できない。
 ※学内利用者の普通図書の利用は貸出とした。
 ※特殊資料：マイクロフィルム及びマイクロフィッシュ資料

(6.6冊)と続き、全般的に近接部局の学生の利用が多い。

身分別では学生の利用が全体の69.2%を占め、他の利用層の群を抜いているが、学生1人当りの貸出数は約2冊である。

(1) 開架図書

開架図書(約64,300冊)の配架状況は、言語・文学分野が全体の15.0%、法学・政治分野11.2%、次いで数学・物理、歴史・地理分野が、各10.8%となっている。今年度は蔵書構成上、自然科学分野にもかなりの配慮をしている。

貸出冊数は64,589冊と昨年より増加している。これを分類別に見ると、数学・物理が26.6%と他分野に比して圧倒的に多く、回転率においても同分野の図書は1冊当り年間約3回貸出されている。

身分別では学生が78.4%(52,043冊)を占め、この内訳は、教養課程学生32.0%(16,660冊)、学部学生68.0%(35,383冊)である。

(2) 書庫内図書

12,540冊が貸出され、院生が42.0%と最も多く、

次いで学部学生、教官の順で、一人当り貸出冊数では教官が最も多い。

分類別では、人文・社会科学分野が圧倒的に多く①言語・文学、②歴史・地理、③芸術の順で、開架図書と大きな差異がある。

3. 参考調査

(1) 文献調査

所蔵調査の受付(文書、電話)4,363件(内訳：文書2,303、電話2,060)

文書による調査依頼の殆どは大学図書館間の相互利用によるものである。電話では学外から4割の調査依頼を受けている。

(2) 情報検索(JOIS、DIALOG)

校費による代行検索は、JOIS 15件、DIALOG 43件、計58件受付、データベースの検索回数は、202回であった。これは61年度の18件51回、62年度の37件190回からみて増加の傾向にある。この他に学内システム(大型計算機センターシステム)の検索も行っている。

(3) テレックス

1,107件（送信374、受信733）

4. 貴重書の閲覧

貴重書の利用は3,416冊（362人）で、前年度の利用2,427冊（329人）と比較すると40.0％（10.0％）の増加である。学内と学外者の利用冊数比は46：54であるが、利用者数比は逆転して、53：47となっている。学内利用者の構成では、院生と教官の利用冊数はほぼ同数で、両者あわせて学内利用の80.0％を越えている。

利用頻度の高い資料は、前年度と同じく文庫でない単独の貴重書が648冊（20.0％）で最も多く利用され中院本451冊（13.0％）、平松本313冊（9.0％）、清家本255冊（7.0％）と続いている。63年度の利用の特徴は各文庫の利用構成比が均等化したことである。また、特に利用が集中した月は、7、10、11、2月で、例年とはほぼ同じである。

5. A V（視聴覚）資料

利用に大きな変化は見られない。63年度の利用状況は以下のとおりであり、（ ）内は前年度比である。

利用回数：5004回（－213）
実質利用者数：598人（＋7）
1日平均利用回数（平日）：21回（－0.9）
（土曜日）：8.5回（＋0.9）
ビデオとL Lの利用回数比：56：44（56：44）

言語別利用状況

	英	独	仏	露	中	日	手	計
ビデオ(回)	1688	191	303	33	223	377	3	2818
(%)	59.9	6.8	10.8	1.2	7.9	13.4	0.1	
L L(回)	1696	120	231	34	77	28		2186
(%)	77.6	5.5	10.6	1.6	3.5	1.3		
計(回)	3384	311	534	67	300	405	3	5004
(%)	67.6	6.2	10.7	1.3	6.0	8.1	0.1	

6. 図書館間相互協力

(1) 他大学等への紹介状の発行

① 国立大学共通閲覧証：193件

② 公私立大学等：410件

(2) 文献複写

① 受付：8,439件

② 依頼（国内）1,500件
（外国）119件

受付8,439件のうち588件（7％）が謝絶で、この大半は所蔵なし及び書誌事項記入の不備であった。機関別では国立大学から6,239件（73％）、私立・公立大学1,520件（18％）、個人・企業等582件、国立機関98件となっている。

また、本学からの依頼（国内）1,500件のうち、国立大学へ905件（60％）、私立・公立大学へは595件行った。

(3) 図書の現物貸借

所属機関にない資料の利用については、図書館間相互協力活動のうち、図書館資料そのものを貸し借りする、いわゆる現物貸借制度を活用している。本学においてもこの制度の運用により学内外に多くの研究に寄与している。

①他大学への貸出

受付総数	所 蔵		貸 出	
	有	無	可	不可
665件	632	33	477	188
100%	95	5	72	28

貸出不可188件の内訳は、所蔵図書室が貸出不可34％、所蔵なし17％等であった。

②他大学等からの借用

受付総数	所 蔵		借 用	
	有	無	可	不可
205件	203	2	155	50
100%	99	1	76	24

借用不可50件の内訳は、所蔵なしのほか、所蔵図書室が貸出不可10件（20％）、国立国会図書館貸出制限資料6件（12％）等であった。

借用者を身分別に見ると、院生の利用が最も多く112人（54％）、次いで学部学生27人、助教授の

利用が20人あった。

7. 学外者の利用

「京都大学附属図書館学外者利用内規」及び、共通閲覧証による近畿地区国公立大学間の相互利用の運用開始等、サービス範囲も広がり、また、理工学系外国雑誌センター、大型コレクション資料など、全国的な共同利用が原則の資料の増加に

伴い、学外者の利用は増加の傾向にある。

利用者も本学卒業生から一般市民まで広範囲であり、特に最近では、国際化時代を迎え、留学生は勿論のこと、一般外国人研究者の利用も増加してきている。

年間利用数8,766冊（1,710人）、一日の平均閲覧数35冊（7人）で、一人当たり平均5冊の利用であった。

学外者閲覧利用所属機関別内訳

区 分		図 書		貴重書		特殊資料		新 聞		雑 誌		参考図書		計		構成比	
		冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊%	人%
卒 業 生		797	193	97	1			286	57	674	208	52	32	1906	491	21.7	28.7
他 大 学	国立大学	649	133	128	14	2	1	201	19	778	183	12	8	1770	358	20.1	20.9
	公立大学	119	23	137	17	57	6	26	2	58	22	6	4	403	74	4.5	4.3
	私立大学	647	164	832	84	9	7	168	29	729	237	19	10	2404	531	27.4	31.0
そ の	一般市民	223	20	62	7			72	12	113	28	5	3	475	70	5.4	4.0
	機関・研究所	859	65	564	30			112	10	146	41	25	8	1706	154	19.4	9.0
他	外 国 人	18	7	16	16			53	4	13	3	2	2	102	32	1.2	1.9
計		3312	605	1836	169	68	14	918	133	2511	722	121	67	8766	1710	100.0	100.0

「新入生のための
Library Guide 1989」の発行

新入生が最初にもっともよく利用する教養部図書館と附属図書館を紹介するために今年も小冊子“ライブラリーガイド”を発行し、各学部事務室（教務掛）を通じて新入生全員に配布しました。

京都大学には、教養部図書館、附属図書館のほか、各学部・研究所等にも多数の図書館（室）があり、現在蔵書数は図書約470万冊、雑誌約5万8千タイトルを所蔵しています。

このライブラリーガイドでは、上記2つの図書館の利用方法をイラスト入りで説明するほか、全

学の図書館（室）についても附録の配置図等で利用条件などがわかるようになっています。

この利用案内を参考にして、新入生の積極的な図書館利用を期待しています。

なお、教養部図書館・附属図書館の利用には、「図書館利用証」が必要ですので、まだの人は、附属図書館の受付（インフォメーションカウンター）で利用証（ライブラリーカード）の交付をうけてください。